



学校だより



令和 7 年 10 月 京都市立山階南小学校 校長 鈴木 洋一

Tel:592-2849 Fax:592-2851 E-mail:sankaiminami-s@edu.city.kyoto.jp

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月に実施した6年生対象の「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語科・算数科・理科と共に、家庭での過ごし方や学習時間等を問う調査も実施されており、全国で約 93 万6千人の6年生の児童が受けました。全国の結果と合わせて本校の子ども達の概要をお知らせします。

総合結果(国語・算数・理科)

全国平均の正答率と比べて、国語科、算数科、理科共に低い結果となりました。無解答率においても、全国平均と比べて高い(無解答率が高い)ことから、問題に向きあい、最後まで取り組もうとするところに課題を抱えている児童が多いことがわかりました。以下、国語科と算数科、児童質問紙調査を取り上げて調査結果の概要を説明します。

国語科

本校の中では「我が国の言語文化に関する事項(かわや・便所・トイレの呼び名を問う)」の正答率が比較的高く、「情報の扱い方に関する事項(枠囲みや矢印でまとめた、話し合いの記録の効果を問う)」の正答率が低かったです。以下に、観点別に見た問題で課題が大きいと感じたものを2点紹介します。

●「話すこと・聞くこと」

1 問目の問題です。問題文にある発言の意図を説明したものとして適切なものを選択する問題です。この問題の正答率は、50%でした。(全国平均 53.3%)「自分が聞きたいことを相手から引き出すための発言」についてその意図が理解できるかを問う問題でした。全国的にも正答率が半分だったことから、確かな根拠をもって解答できた児童が少ないと思われます。コミュニケーションにおける発言の意図については、日常生活でも取り上げられることです。ご家庭でも、「それ、どういう意味?」などと聞いたり、言葉の意味を答えさせたりしてみてください。

●「読むこと」

「資料 A を読み、言葉の変化について自分が納得したことを、他に挙げられている複数の資料 B に書かれていることを理由にしてまとめて書く」という問題です。この問題では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかが問われました。この問題の正答率は、40.4%でした。(全国平均 58.3%) 全 14 問中最後の問題だったので、時間が無くなり、答えることができなかった児童もいたようです。資料から言葉や文を取り上げて書くことや、納得した理由を資料から選び、言葉や文を取り上げて書くことに課題があったようです。資料を丸ごと写すのではなく、必要なところを必要に応じて必要なだけ「引用」することを学校では学習します。情報の適切な扱い方にも通じると思います。

算数科

算数科は、5つの領域に分かれています。今年度はすべての領域からの出題がありました。5つの領域の中では、「データの活用」が最も高く、「図形」が最も低い正答率でした。2つ紹介します。

●「図形」

示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ問題です。平行四辺形がどのような形であるかは理解できていることがわかりましたが、既を書いてある線をふまえて、どこに針をさしてコンパスを使えばよいかという応用面での課題が見えました。

●「データの活用」

「使いかけのハンドソープをあと何プッシュすることができるのか」を調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書くという問題で、本校の中で最も正答率が高かった問題です。（本校：75.5％・全国平均：82.8％）ハンドソープの中の240mL入っている液体が空になるまでに何プッシュすることができるかを求めるために必要な情報を選ぶことができていた児童が多かったです。算数で学んだことを日常生活の場面で活かすことは大切な力です。ご家庭でもちょっとしたことを取り上げて、算数につなげていただけると嬉しいです。

児童質問紙調査から

① 基本的な生活習慣について

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の3項目については、「している」「どちらかといえばしている」を合わせた肯定的な割合が、全国平均よりも低い結果となりました。毎日の生活習慣の積み重ねが学校生活にも影響します。特に睡眠時間は、体調を整える上でも、記憶の定着という意味でも大事です。これをきっかけに、平日だけでなく、土曜日や日曜日などの休日の過ごし方にも気をつけていただければと思います。

② 自分について

「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりますか」「学校に行くのは楽しいですか」では、どれも全国平均と同じかやや高い肯定的な回答でした。一方、「自分には、よいところがあると思いますか（7割が肯定的）」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか（5割が肯定的）」では、それぞれ全国平均と比べても低い結果となりました。この結果は、先日お伝えした「（前期）学校評価アンケート」とも同様の結果となりました。学校でも児童一人ひとりのよいところに着目して声かけを続け、児童が自分のよいところに気付いたり、自信をもったりしていけるよう支援していきたいと思っています。

保護者のみなさまへ

全国学力・学習状況調査は、結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。結果に一喜一憂することなく、自分の課題を発見したり、学習の仕方に活かしたりするようお声かけください。また、家庭での生活や、児童の見方・考え方については、ご家庭でも取り上げていただくなど学習と日常生活が結びつくような声かけをしていただけたらと思います。ここで取り上げた国語科・算数科、また、理科の結果については、校内でも結果を共有し、授業や指導の改善につなげていきたいと考えています。